

はしがき

本書は、現代自治体政策の論点——変動，対立，そして未来を構想するものである。いま私たちは、グローバルな諸問題の影響を受けつつ、人口減少，経済構造の変化，セーフティネットのあり方など，これまで経験したことがない深刻な問題に直面している。自治体は多様な政策を形成し，それらの問題解決を目指してきた。目まぐるしい環境変化の中で，いかなる価値を重視し問題解決を図っていくかがかつてなく鋭意に問われる時代である。自治体における政治や行政はこれらの諸変化に的確に対応し，問題解決のための政策をどうデザインすればよいかを慎重に展望しなければならない。

こうした中で，本書はとりわけ地方自治，地域社会という身近な局面において生起している様々な出来事や現象に着眼し，当該変革期における政策の形成，それを取り巻くアクターが諸変化をいかに捉え，理解し，対応してきたのかに着目する。本書はこれまでの自治体の様々な政策や取り組みを紹介するだけでなく，立場や見方によっては，本質的な問題解決過程において困難なハードルが存在することを伝えることを念頭に作られたものである。いわば，「答えがない」ないし「答えを見つけることが大変難しい」時代の中で，対立や葛藤を乗り越え，未来を構想してもらうことを企図している。いかに答えを見つけていくべきか，そのためにいったん立ち止まって「考える」ことが肝要である。本書は，そのための道標あるいは知への誘いとなることを目指している。

以上のような趣旨から，本書はできる限り幅広く地方自治の現場で生起している諸問題を多角的に取り上げ，理解できるよう設計されている。第Ⅰ部は，二律背反の葛藤がある状況を考える「課題の変化」である。第Ⅱ部は，政策の方針や方法についての葛藤を考える「手段の変化」，第Ⅲ部は，誰がどう関与すべきかを考える「アクターの変化」である。そして第Ⅳ部は，自治体は公益性のみならず利益を生み出す事業性を同時に検討するが，その際に枢要な論点を考える「稼ぐ自治？」である。

本書は，序章にもある通り，大学1年生等初学者が学問や学術に触れる契機としていただくことを念頭において企画されたが，学生の立場だけでなく幅広

い一般の人々にとっても、変化の激しい社会の将来と可能性を考えるきっかけとしていただけるかと思う。

なによりも本書は、同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科教授真山達志先生のご退職ならびに古希を記念して企画されたものである。真山先生は、行政学・地方自治・公共政策の分野において長年にわたり教育・研究に従事され、数多の優れた業績を通じて、日本の行政学および公共政策研究を牽引してこられた。「記念本」でありながら、先生ご自身にも序章をご執筆いただくという、きわめて稀有な構成を成しえたのは、ひとえに先生の懐の深さの賜物というほかない。私たち執筆者はみな真山先生より教えを受けた者であり、これまで先生から賜った数々の教えを胸に刻み、その学恩に報いるべく、本書を謹んで先生に捧げたい。

2026年1月15日

入江容子
野田遊
森裕亮